

ボランティア部の名称と会報の名前を12月から変更します。

ボランティア部 「コスモス」改め「まごころ」  
会 報 「コスモス通信」改め「まごころ尾張」  
変わらぬご支援をお願い申し上げます。

◆新聞のアンケートの結果は驚かない。勿論、子供が親の老後をみるのを当たり前だとは思わない。それぞれの生活があるから。(四十代女、近県に両親)

◆「当たり前」という言葉で親の老後の世話を語る時代ではない。みてもあれば嬉しいと思うけれども無理かも知れない。思うから期待はしていない。(六十代女、独身の息子と)

◆自分の親は当然と思うが姑には思わない。(五十代女、姑と同居)

◆新聞アンケートの結果はともいいたいと思う。女性が意見を率直に出してきている感じがする。意見はきちんと言わないと問題が分かってこない

◆親をみるのは当たり前だと思わなければならないが、親の世話はするべきだと思う。(四十代女、夫は未っ子)

◆親をみるのは当たり前だと思わなければならないが、親の世話はするべきだと思う。(四十代女、夫は未っ子)

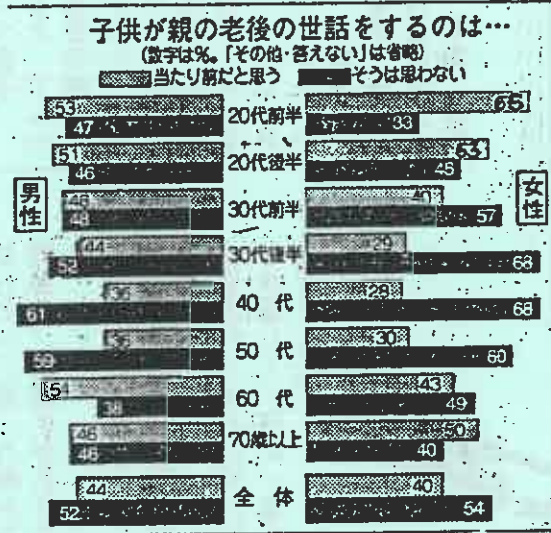
◆親をみるのは当たり前だと思わなければならないが、親の世話はするべきだと思う。(四十代女、夫は未っ子)

世論調査によれば、親の老後を子供がみるのが「当たり前と思わない」が、この十年で三九%から五三%に増えている。そして逆に「当たり前と思う」は五四%から四二%に減っています。特に女性の三十代前半から五十代では六〇%前後が「当たり前ではない」として、介護問題の切実さが現れています。

それでも、介護は自宅で家族にみてほしいが四八%もあり、自宅でホームヘルパーなどを頼みたいという一三%を合わせると六〇%以上が在宅介護を希望しているのは皮肉なものです。

地域の方々に聞いてみました

子供が親の老後をみるのは、全体では「当たり前と思う」(七〇%)「そうは思わない」(三〇%)と全国の結果とは違っています。当たり前と答えた人の中には「仕方がなく」という意見も多く、親をみるものだという壁は厚いようで、本音が出ていないようです。皆さんの主なご意見は次の通り。



介護の長期化、重症化はよほどの社会サービスが充実しない限り当てるの出来る在宅での介護は難しいようです。  
(次の表は十一月十三日付朝日新聞から)

10月活動状況

活動件数	10件
活動人数	27人
活動時間	160時間

10月会員登録状況

協力会員	45人
利用会員	22人
賛助会員	105人
計	172人

